



金

變

仁

華

鶴

亭

賀

作

上卷

13
3689
19



門へ13
號 3689
卷 19

金華

七変化

鶴亭著

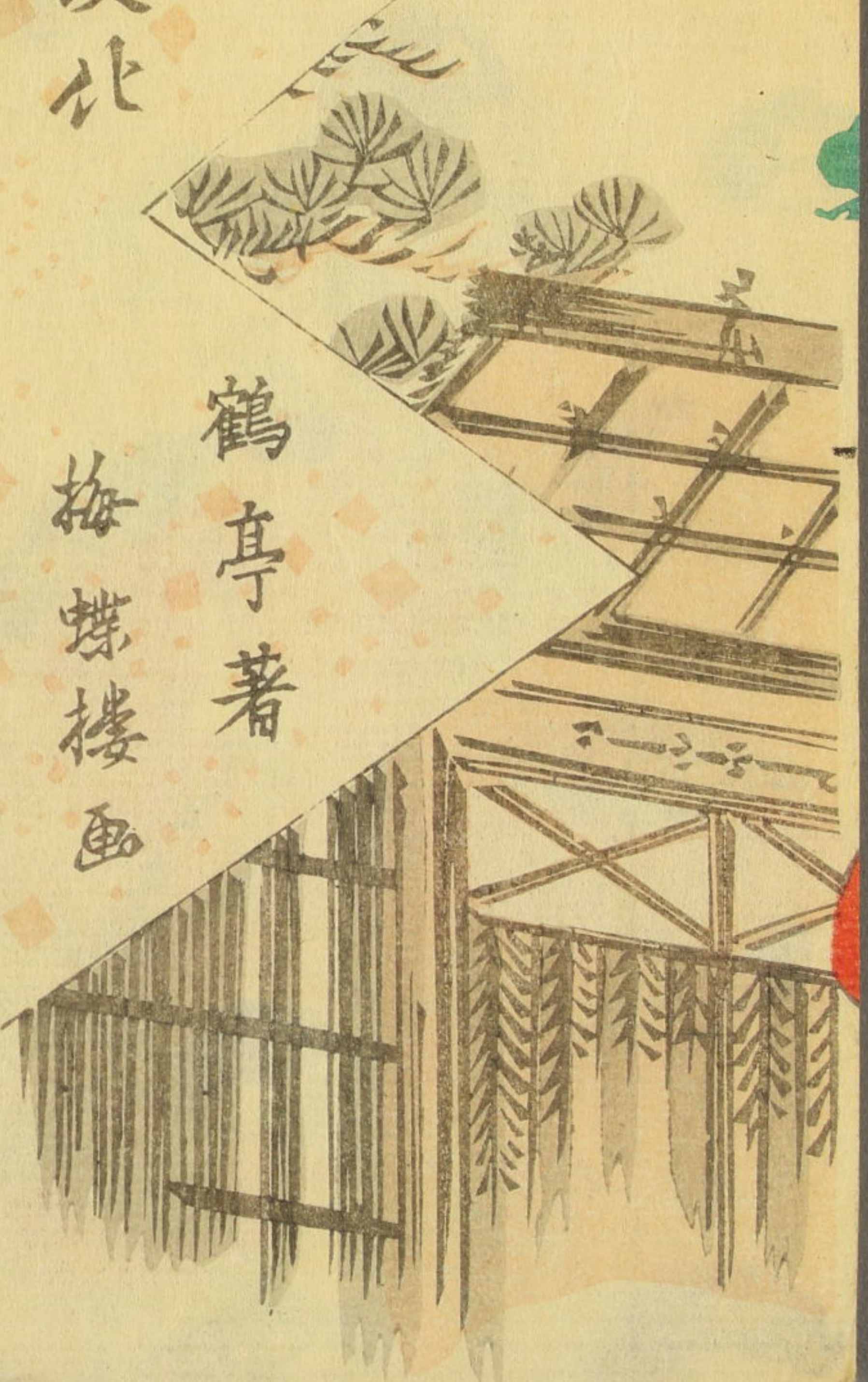
梅蝶樓画

十九編

金松

上之卷

青楼

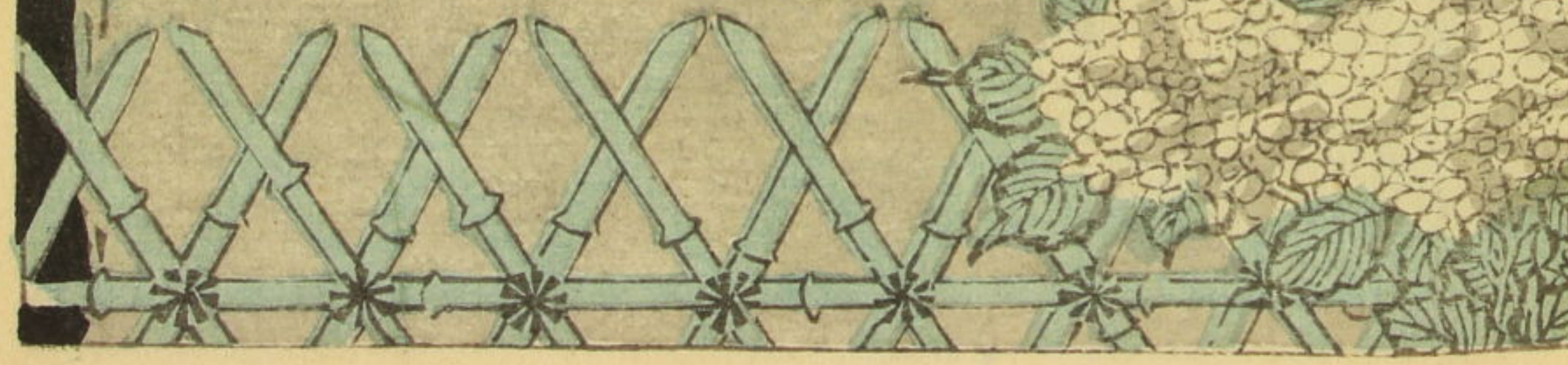
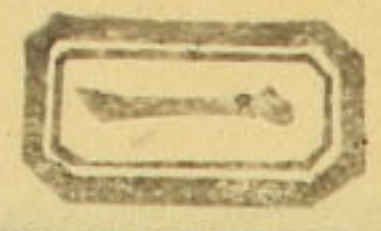


自序

釋尊提婆羅樹の勝より降誕菅公好文木の下に
臨降有りと吉壁を引も恐惶なれど此処にありの者ありて
柳官の腹を借物小毫の先より稿出せし其名ハ則草史郎
と進められど御負の余光ハ歳々編を重ね星霜積つて
既に十有九篇と成るる古今不通の田家茶話の趣向の意
甚鈍く天尔遠波の衣裳をさへ鎔らざれば視るふ実もろく
香も無かれど番茶も者ハ花と御見捨る。金の花の花々あり
競求て高覧ある画師と作者の夫婦ハ勿論養親の
梓元が喜愠是ハ勝るるものありや

春霞樓主人

鶴亭漁夫識





あし原國之進
春日野の行跡を
怪と却て妖猫
の為小計られ
無実の罪非
命の及と遂々

浪江の浮太の郎の妹の千鳥は是又猫の怪の為小計られ無実の罪非命の及と遂々

妖猫の魁首
王垂
春日野の實の野の春の猫

浪江浮太郎藻の花の

多情を憤り

無此上禍を

引出し

非道小

命を

落す



大守

義弘

益悪行

増長

古川水菴の

愛女サ藻の花

伯父檢校の靈小遇てより

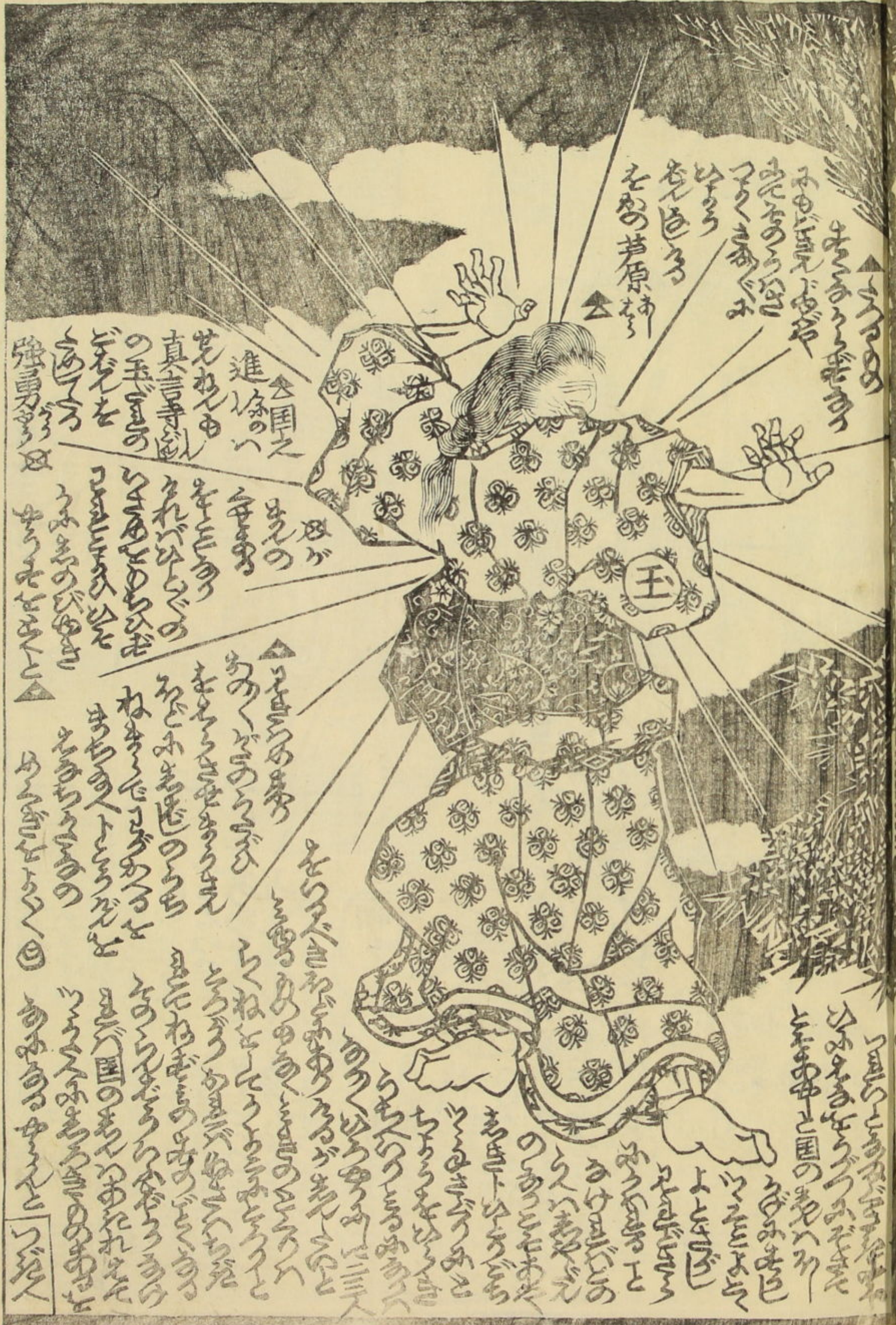
大守み怨を復き為媚を獻ぐ

大守の意中を蕩す



○ 世襲の十一の...
あつたものは、...
あつたものは、...
あつたものは、...

○ 世襲の十一の...
あつたものは、...
あつたものは、...



▲ 世襲の十一の...
あつたものは、...
あつたものは、...

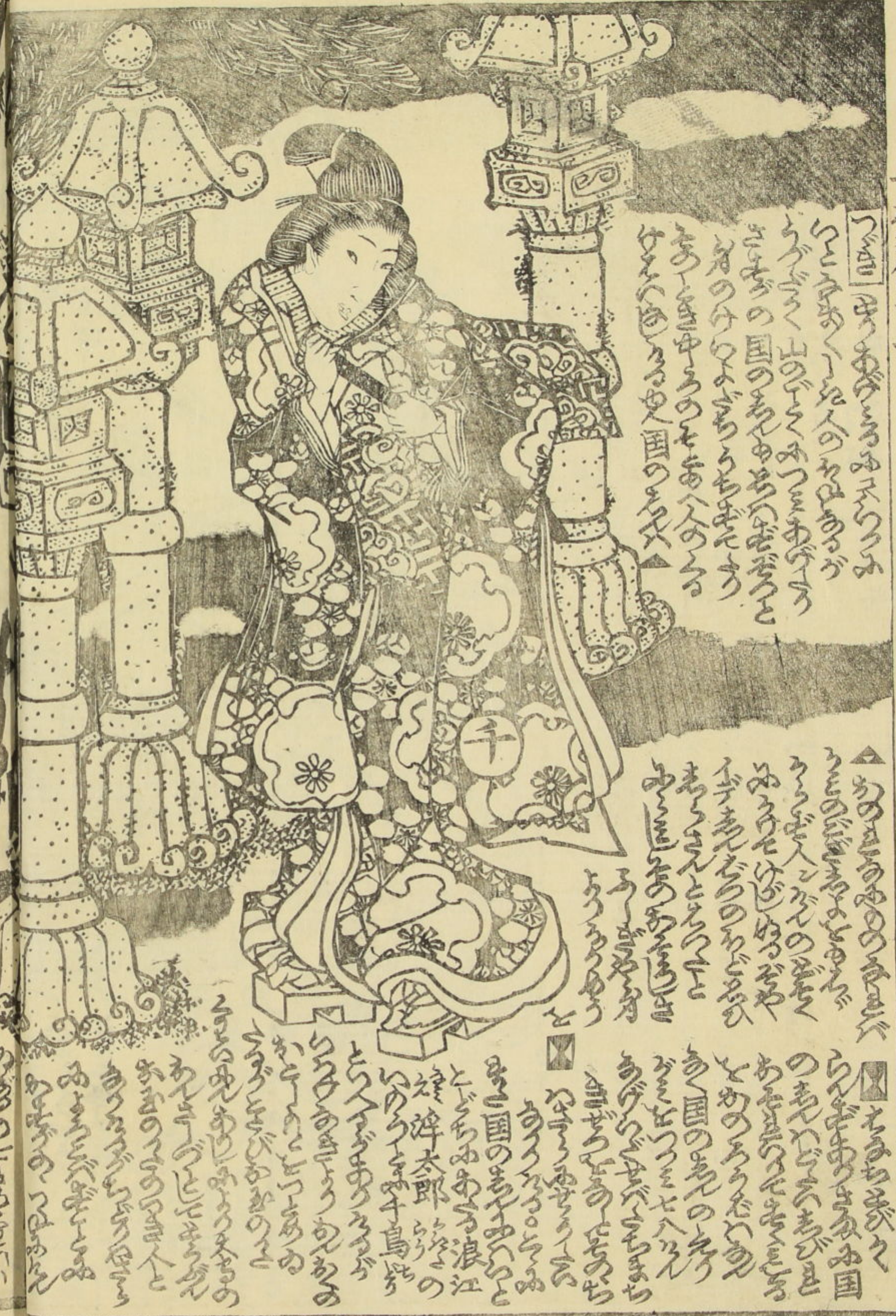
△ 世襲の十一の...
あつたものは、...
あつたものは、...



山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心

山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心

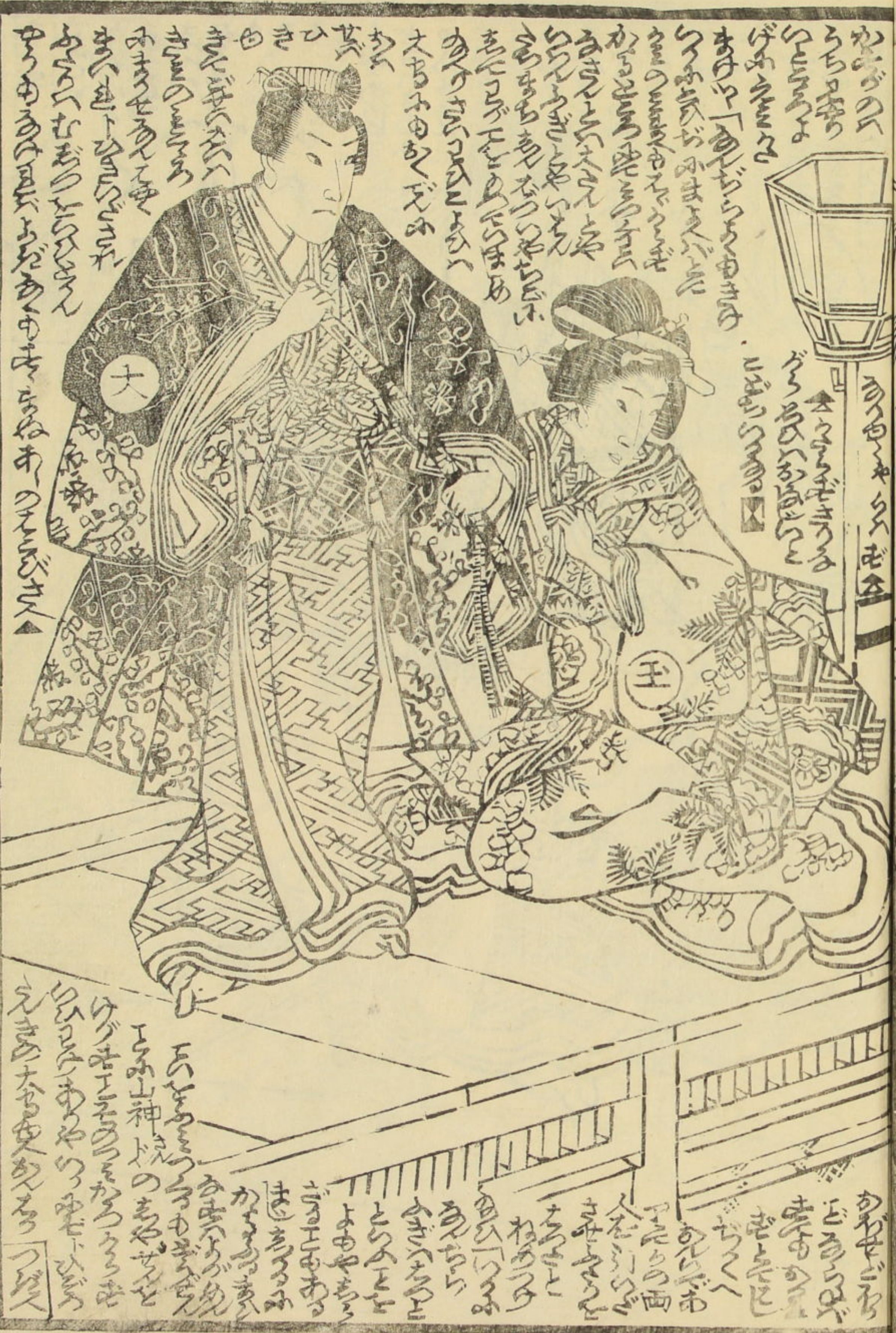
山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心



山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心

山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心

山神社の
 春の
 花
 の
 香
 り
 が
 遠
 く
 聞
 け
 る
 老
 母
 の
 心



Vertical text in the upper left corner, likely a title or introductory text for the scene.

Vertical text in the lower left corner, likely a dialogue or commentary related to the illustration.



Vertical text in the upper right corner, likely a title or introductory text for the scene.

Vertical text in the lower right corner, likely a dialogue or commentary related to the illustration.

古川検校の霊



Vertical text on the left side of the page, likely a chapter or section title.

二の巻の... 初夜... 花... 見... 小...



金華

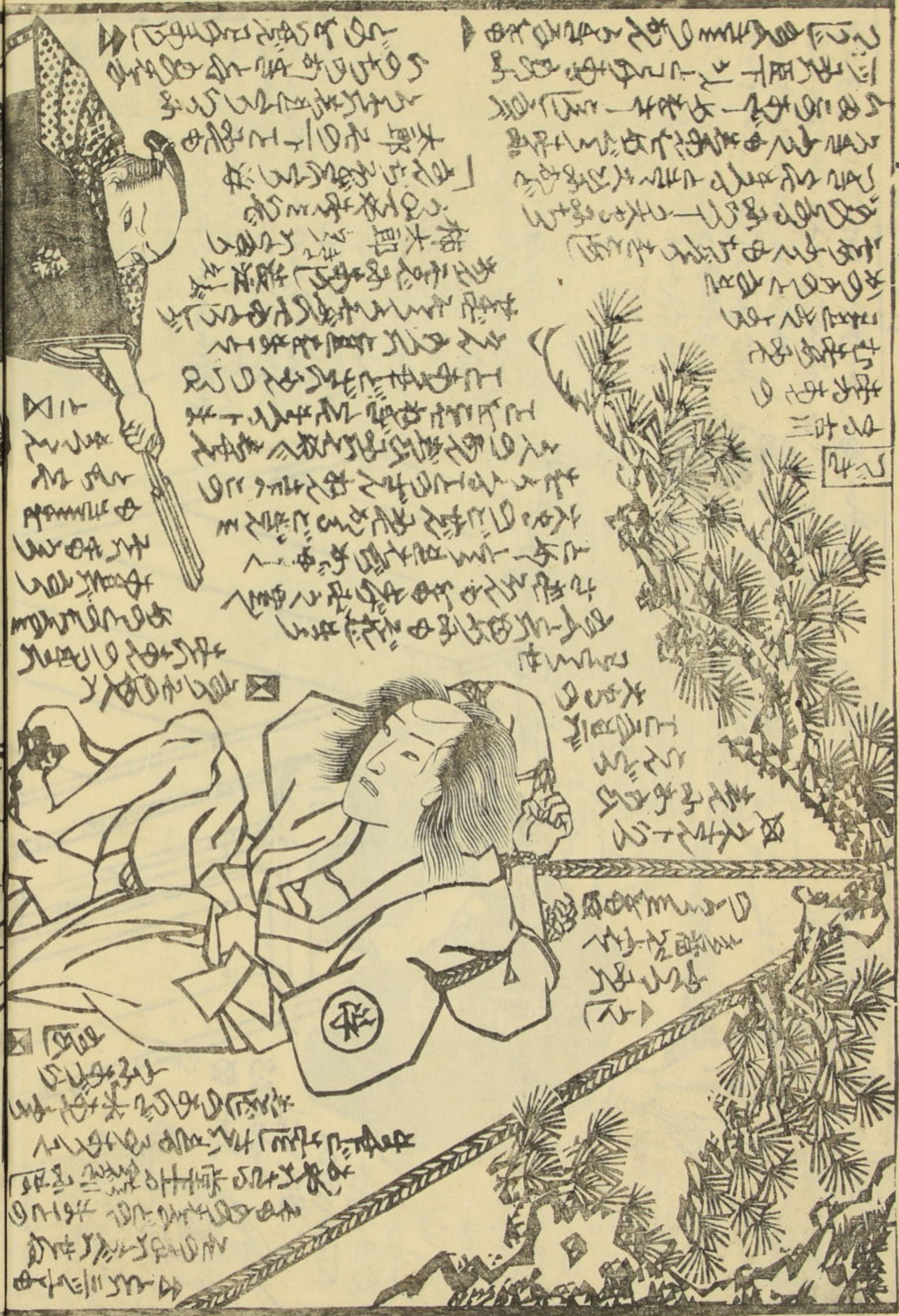
七厘ん化

十九卷の作

高笑化

周貞画

辻文梓



慶應二歲丙寅初春開版目錄

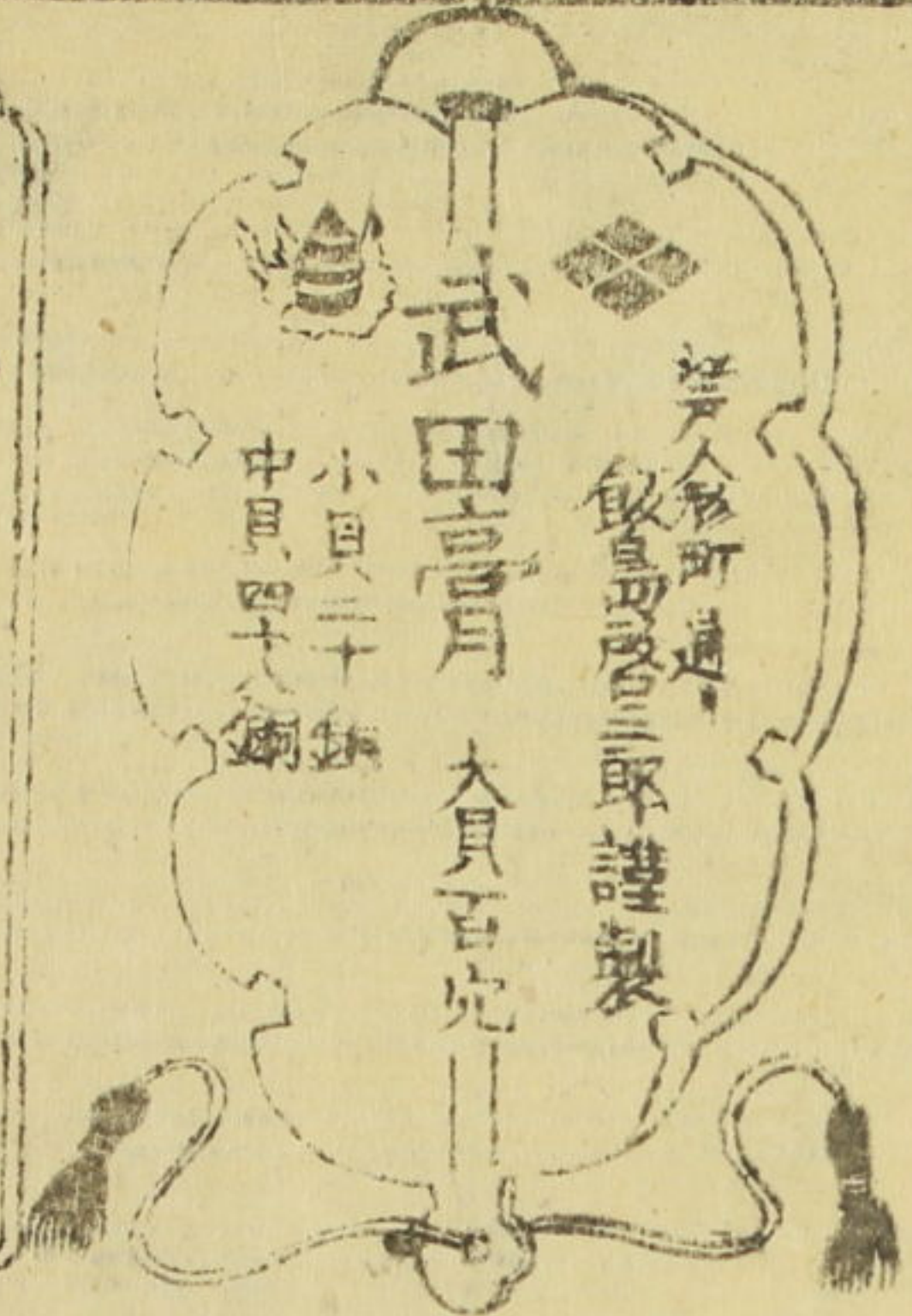
文

地本 雙紙 問屋 金松堂

神 仙

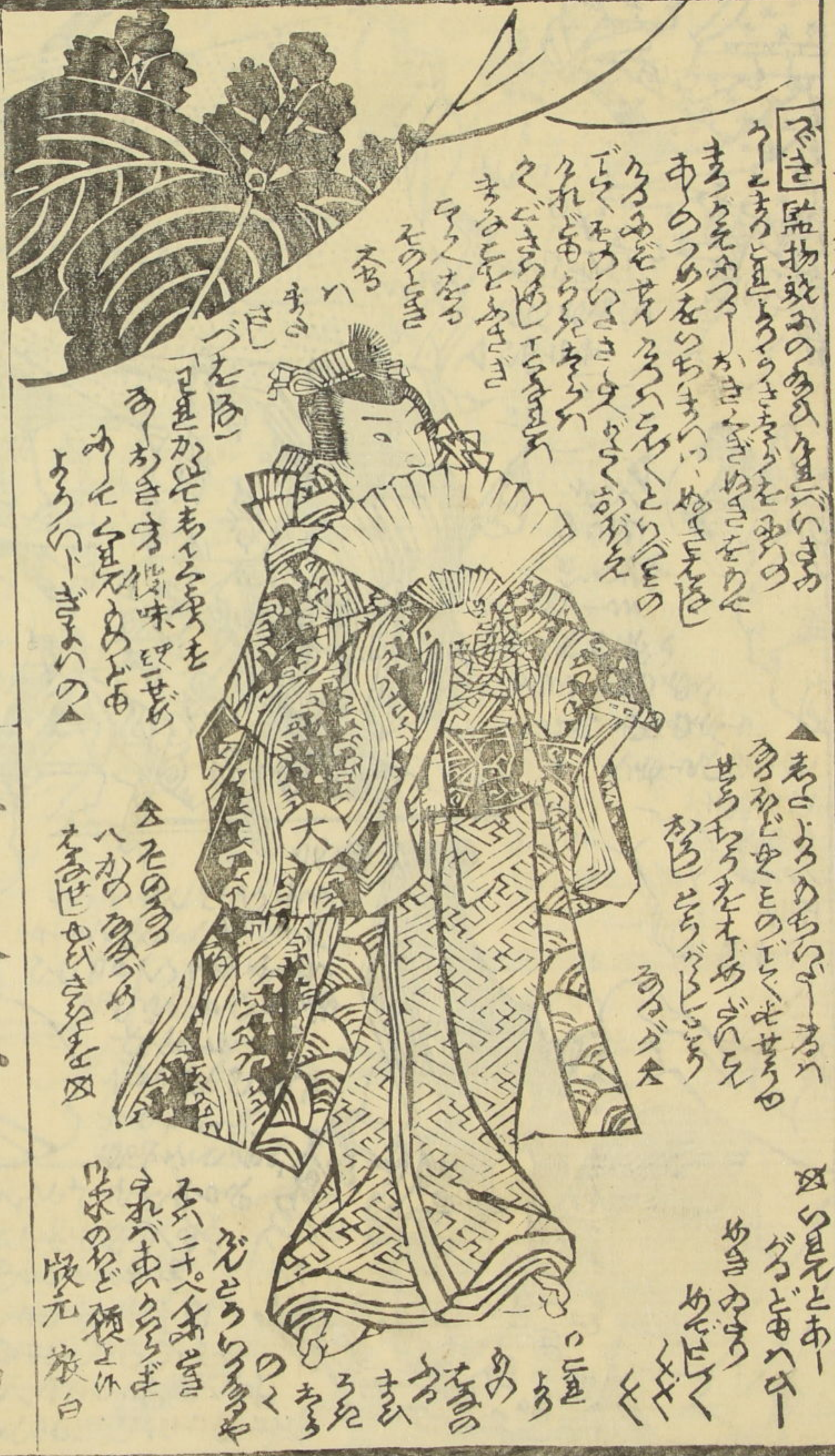
氣多毒の小兒五交諸病
調合所 上總国 東金町 大野傳兵衛

一角九



春霞樓秀賀著

梅蝶樓國貞画



周防染櫻模様 四編 貞雅作
 梅春霞引始 三編 魯文作
 濡衣女鳴神 十編 秀賀作
 假枕巽八景 二編 魯文作
 道外江戸名所 大錦繪 五十枚 廣景画

横山町三丁目 辻岡屋文助梓

